

# 中央常任部、本部港塩川地区を視察 沖縄県玉城デニー知事を表敬訪問



玉城デニー沖縄県知事（中央）を囲んで

今年で四二回目となる「五・一五沖繩平和行進」が、五月十七日から始まり、全港湾で阻止行動を行うメンバーから埋め立て土砂の搬出作業が再開されるとの情報を受けて、辺野古新基地建設反対座り込み現場に寄らずに塩川地区へ中央常任部五名沖繩地本と二名の計七名で、沖繩地本と横浜支部の街宣車二台で急行しました。途中、埋め立て土砂の搬出作業に使用されている民間企業「琉球セメント」



本部港塩川地区を視察

現場に到着し街宣車から降りて沖繩地本山口委員長と本部鈴木副委員長が違法に設置されたフェンスを乗り越え搬出作業場の責任者のもとへ向かいました。そこで二名が、柵門表や安全掲示板などが無いのに気づき指摘しようとしたが責任者が誰だかわからず、作業員に聞いても「誰だかわからない」との返事。鈴木副委員長が近くにいた工事関係者に積込作業をしている会社の名前を聞くと「わかりません。確認してきます」と話し、待てど暮らせど戻って来ません。再度他の関係者に同じ質問すると同じ回答があり確認をしに行き又しても



冒頭、真島委員長より全国港湾連合会の辺野古新基地建設反対の活動や、港湾における土砂搬出作業等の拒否や全港湾での取組みなどの諸活動の報告をしながら、港湾労働者の立場、港湾の安全、港湾の整備・使用・利用等についてできるだけ説明をしました。また、午前に視察した塩川地区の現状など、港湾作業

吉田ただとも氏が日本海地方を訪問  
政策協定を締結し今後の労働運動に力  
社会民主党の前党首で特別に訪れた。吉田ただとも氏は、日本海地方は、吉田氏が労働組合運動を深く理解し、現場に足を運び、共に歩んで行く姿勢に改めて感銘を受け、政策協定を締結するに至った。労働者・労働組合の置かれている現状は非常に厳しいものがあるが、平和憲法の精神に則り労働者の権利向上・待遇改善に努める吉田氏の政治理念に日本海地方としても強く共感し、今後とも力を合わせて行きたいと考えている。吉田氏は現代社会になくはならない存在だ。

青年活動年間スローガン 第22回青年対策交流集会決定  
「全国の仲間と絆を繋いで一致団結！全港湾青年部!!」  
(名古屋支部全検分会 河村慎也 応募)



東京都大田区蒲田 5の10の2  
全日本港湾労働組合機関紙  
(毎月1日発行)  
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)  
発行責任者 松永英樹



た。昨年七月二十七日に山口委員長が防衛局員や機動隊員に現場から排除された経緯がありますが、今回は現場のフェンスを乗り越えて視察をして全港湾視察団が排除される行為はありませんでした。前回のこともあり防衛局・機動隊も少しは学んだのだと思います。二十一日午後、沖繩県知事を表敬訪問する前に沖繩県の政策参与と全港湾常任部で意見交換を交わすと同時に、沖繩地本と業界を含めた三者協議会の進め方等についての打合せも行いました。また、兼ねてより希望していた沖繩県知事訪問が叶い、玉城デニー知事を表敬訪問す

# 海コン・トラック・バス合同対策会議 行政交渉では法整備の重要性を訴える

六月五日、六日に、全国から二九名の結集で第二回海コン・トラック・バス合同対策会議が開催されました。会議は初日、中央報告の中で海コン安全会議の内容として、「国際海上コンテナ内の貨物の情報伝達で品目・重量情報の伝達は九五%以上に対して、梱包情報が五%以下と極端に低い、未だに改善されていない」との報告がありました。国際海上コンテナの横転事故、危険物等、漏洩事故など、コンテナ内の貨物の梱包状況が大きく影響されるのに、このような結果に対して早急に安全対策を講ずるべきとの話がありました。

働き方改革関連法が施行され、改善基準告示の見直しが進められることとなったが、



渋滞問題が深刻な東京港

東京オリンピック・パラリンピック開催期間の交通規制や物流を取り巻く現状はなかなか改善されていない。物流政策がすすめられるなかで、事業法の改正など、我々にとつて改善傾向にむいてるが、自助努力も正直なところ難しいものがある。社会情勢を十分に把握、理解しながら地方の取り組みも強化してほしいと話がありました。

## 反核燃の日全国集会に参加して 大きな危険を改めて実感

### 大きな危険を改めて実感

地方報告では、各地方における行政交渉の報告や、地方における「国際海上コンテナの安全輸送に関わる協議会」の発足など、それぞれの取り組み報告がありました。関西では、G二〇開催による交通機関の規制により物流の混乱、停滞など、事業者を巻き込んだ混乱が予想されるとの話もありました。関東では、東京オリンピック・パラリン

この集會は一八八五年四月九日に当時の北村正哉青森県知事が、県議全員協議会を開催し十分な検討も意見も聞かずに六ヶ所に核燃料サイクル施設の受け入れを表明したこと抗議して三一年間開催されてきたものである。再処理工場は、三四年を経過しても次から次へと不具合が出たりと未だに稼働できない状況が続いている。また、核兵器に転用できるプルトニウムを保有することは危険視されており、核燃料サイクルはずでに破たんし、再処理工場や核燃料サイクル施設の状況や問題点があきらかにされ、六ヶ

起」については、まず、トラック労働者の労働条件を調査した上で課題を探りたい。しかし、その調査内容については、港湾産別とは異なるので、一度各地方の意見を集約した中で、調査内容を確定してトライアルで実施できればと話がありました。

## 憲法を守ろう！いわき市民集会 生活を守るためしつかりと声を上げていく



六月十九日、この日はあいの悪天候のため集會が短縮して進行されましたが、四者共闘で「憲法を守ろう！いわき市民集会」が行われ、地区労、地方労、市労連、地区港運共闘から合計約三〇〇名が結集し、全港湾小名浜支部からは五五名が参加しました。集會の中で、いわき地方労平和フォーラム代表の齋藤さんからは「安倍政権が憲法改悪を公然と発言していることや、自衛隊をタシにし自分の野望のために、戦争がしたい。人たちが政権内部と周辺にいることを我々は見逃すことが出来ない」とのお話がありました。

小名浜地区労務局長の 小名浜支部 武田陽介

厚労省と、続けて折衝を行いました。初日の会議内容を踏まえてハンドルの握るドライバー・労働者の労働条件の改善には、業界やユーザーに対する行政側の積極的な指導と実効性のある制度政策が不可欠であるなど強く訴えました。例年々末頃に行われる第一回海コン合同会議の日程は未定ですが、是非とも、自動化や隊列走行などを実際に見てみたいですね。 (沖縄地本トラック部会長 宮城辰士)



ともんじゅは運動しているなど、いろいろな問題がある。集會では、六ヶ所村の再処理工場の稼働に反対するとともに、各地の原発再稼働に反対し、さらに今国会で審議される「原発使用済燃料の再処理のための拠出金法案」の廃案を求めていくことが確認された。集會後には「再処理工場反対」、「東通原発再稼働反対」などシュプレヒコールをあげ、青森市内でデモ行進をおこなった。

青森県内には再処理工場や原発・核燃が点在しており、大きな危険があることをあらためて実感した。今回、行進をおこない自ら声をあげ反対をアピールすることができた。これからも集會などに参加していきたいと思った。(八戸支部青年婦人部 磯谷勇輔)